

主人公

題字 主人公 揮毫 松山市余土中校長 武田 峰紀 解説は3面



発行所
(財)愛媛県教育会
〒790-8545
松山市祝谷町1丁目5-33
エスポワール愛媛文教会館内
電話 (089)945-8644
FAX (089)945-1459
URL <http://www.chime-kyoukukai.jp>

謹賀新年
(財)愛媛県教育会
理事長 田鍋 修
役員員一同

『これからの教育』

〜東日本大震災に思う〜



(財)愛媛県教育会理事長
田鍋 修

新年明けまして

おめでとございます。「壬辰」年、辰は天に昇るという架空の生き物で、お

らかで知識欲旺盛、夢や冒険に憧れ、行動的、社交的だと言われています。昨年来日されたブータン国王夫妻が思い起こされますが、「幸福度世界一」と言われるブータンの国旗は龍がシンボルになっています。「幸せとは何か」を考える一年にしたいものです。さて、東日本大震災で最愛の人を失い、大切な物を流されるなどの大惨事がありました。友達のありがたさ、生きていることの素晴らしさ、そ

して普段どおりの生活が当たり前にできることの幸せを実感いたしました。

何よりも、被災者の方々からが極限の中、救済物資を分け合い、地域の人たちと共に支え合う光景。住み慣れた土地で、地域の人たちとまた一緒に過ごしたいと切望する人々。改めて「ふるさと」の偉大さを感じました。

本震災で、これまで延べ百万人に近いボランティア、多額の義援金そして、全国から温かい支援の輪が広がりました。また、どんな困難の中でも他者をたたえる心、相手を思う気持ちが残っており、世界に誇るべき日本人の気高き

精神であると痛感いたしました。今回のような震災対策や環境問題、教育課題に地域住民自らが働きかける新しい「公共」が今、強く求められています。

私たち教育に携わる者にとって、未来を担う子どもたちが、愛媛で生まれ育ったことを誇りに思い、笑顔で明るく、生き生きと健やかに成長するよう、社会総がかりで教育風土を醸成していくことが何より大切であります。

今後とも、改正教育基本法に照らし、被災地支援や「えひめ教育の日」の推進など公益性のある事業を積極的に展開し、公益法人としての役割を果たすことが教育会の使命であると肝に銘じております。会員はじめ県民各位の御支援・御協力をお願いし、新年のごあいさつといたします。



(大倉可貴先生・画)

聞 びょう 響

昨年、日本は震災や台風などで未曾有の災害に見舞われ、一瞬にして多くの物や人を失ってしまいました。自然の脅威を感じる

とともに、自然の恵みのありがたさを知り、日本の文明や文化の素晴らしさを見直すきっかけとなった年でした。そんな中、被災された方々の高いモラルと忍耐強さは、世界の人々を驚かせました。「和をもって尊しと為す」という古来からの美徳を継承し、秩序正しく、他人を思いやり、真面目で几帳面な日本人の国民性は、脈々と生きていたのです。苦境に置かれながら自然に振る舞う日本人の行動様式は、作り物でない本物の品性、品格の表れでしょう。今年の干支は「辰」、『漢書律曆志』では、「動いて伸びる」「整う」を意味し、草木が盛んに成長し形が整った状態を表しているそうです。▼今年は、みんなが最澄のいう『一隅を照らす』気持ちで、多くの美徳を備えられるよう行動し、今までの自分より少し成長した素敵な日本人になれるような年にしたいものです。

ひとこと

山柿



愛媛県教育会 監事 豊 篠原

東日本震災の写真などを見るたびに少年の頃にあった都市の空爆跡を思い出す。

昭和十九年、私が小学生(国民学校)の時だった。山の学校にも毎日のように疎開児童がやって来る。身内を頼って来る人たちはともかく、以前に職場で知り合っただけの友人の親元に頼み込む家族は大変だった。その同級生の中にひどく大変な状態の少年がいたので、何とかしてあげたらと思い、家の庭にあった山柿の実を取り、古い風呂敷に包み、学校に持って行った。友人はあたりを見廻すと、すばやくそれを机の中に入れて、「ありがとう」と低い声で言ったまま教室外へ走り出た。

誰にも知られなかったとの安心も束の間、担任の女先生

(男の先生は出征してしまっただので、町の中等学校・女学校の生徒が代員として配属されていた)から「残っていないさい!!」と強く言われた。放課後、教室で長々と注意を受け、夕方になり帰ろうと運動場に出ると後から先生が駆けつけて来る。ふりむくと顔をくしゃくしゃにして「よかったですら先生にも少し持つて来てくれん?」と言う。「ハイ」と返事をして別れたが、「今まであれほど叱っておいて何たることだ。絶対に持つて来るもんか。」と決めた。その後一度催促があったが、「忘れしました。」で通した。数十年経って娘が新採教員として遠地に赴任した。今は食料事情など全く心配はないが、親としていろいろと気を遣う。その時このことを思い出した。「何と自分は強情な少年だったのか...」あの時の先生の親も娘をどんなにか心配していただろうに。

学校紹介

No.125

八幡浜市立真穴中学校

真穴のみかんは日本一

宇和海に浮かぶ三つの蕪島、それを臨むように真穴地区は存在する。晴れた日には、オレンジ色の夕日がとても美しい。穏やかな海は、その光を受けて宝石のように輝いている。ここ真穴は言わずと知れたみかんの産地である。十一月から十二月になると穏やかな様子は一変し、慌ただしさを増してくる。日本全国からみかんアルバイターも来て、地区総出でみかんの収穫に取りかかる。そんな地域柄だろうか、真穴の子どもたちもお手伝いを行っている。

小学校は昭和四十二年から、中学校は平成元年から「愛のみかん運動」を行っている。お手伝いの報酬としていただいたみかんを学校に持ち寄り、箱詰めし、日ごろお世話になっている施設などに届けている。普段は部活動が忙しく手伝う機会がなかなかとれない中学生も、この時期は

お手伝い優先である。たった一週間ではあるが、その期間を通して、子どもは親の仕事の大変さを知り、親に感謝し、親は子どものたくましさや再認識する。子どもは、労働の報酬としていただいたみかんを特別の思いで受け取り、みかんに対する愛情を募らせる。そのみかんを、各戸から全校生徒が学校へ持ち寄る。持ち寄るその顔はどの顔も笑顔であり、みかんに対する誇りであふれている。真穴の保護者は学校の教育活動に協力的である。参観日



(教頭 上田 圭城)

題字に寄せて

しゅじんこう
主人公



松山市余土中
校 長
武田 峰紀

この「主人公」という言葉は、私自身が、学校教育経営の礎としている言葉です。それぞれが「主人公になろう」という願いからです。

「主人公」とは、自ら求め、考え、判断して行動できるという意味です。自ら努力し、がんばって自己実現をめざして生きる人間ということですね。この意味で、「主人公」は、子どもたちの目標であると同時に、私たちの指針であり、理念でもあります。そして、人生の道標でもあります。子どもたちには、グローバル化される世界の中で、「主人公」として立つ位置をしっかりと定め、豊穡な一度の人生を歩んでほしいと願うのです。

ふるさとに生きる

地域に生かされてありがたい



西田友三先生

訪問者

梶川 満智子

(上浮穴支部OB)

残暑の厳しい八月十八日、ご自身が制作された書や木彫りの作品に囲まれた部屋でインタビューさせていただきました。拝見した木彫りは力強く深彫りの大きな作品ばかりでした。

八十一歳になられる今、書道の指導と木彫りの作品づくりが、生きがいであり健康のもとであるとお話しいただきました。

○書道や木彫りの魅力についてお聞かせください。

書道歴は、五十年。現在は二ヶ所で毎週一回、仲間と楽しく過ごしています。

作品づくりで大変なことは、「自分自身に課題をかける」ということ。

そして、何枚も何枚も一生懸命に書き、自分なりに納得のいく美しい線の出せた一枚を選び、表装出来た時は、充実感があります。

木彫り歴は約十六年。毎年長野県から来られる先生から一週間厳しい直接指導を受けています。仲間の皆さんと切磋琢磨して、年間七、八点の作品を発表しています。

一本の木、一枚の板から自分の思い描いた作品に彫り上がってくるのが魅力であり、作品に愛着が湧いてきます。

書道も木彫りも、仲間がいること。発表の場があり、作品として残せるところが魅力とのことです。書道については、若い頃から『五体字類』一冊が、ダメになってしまっ

No. 64

た程研究し、精進されてこられたとお聞きしました。
○現職の時の特に思い出に残る実践についてお聞かせください。

『主体的学習』の実践に向けて、旧柳谷村の西谷小や久万小に勤務した時に学校全体で取り組んだことが心に残っています。

三重県・愛知県等からも招へいされて公開授業をしたり、講演させてもらったこと等懐かしい思い出です。

主体的学習は愛媛県が発祥・先進地でした。西田先生は、主体的学習の実践者として活躍されました。



て活躍されました。
○座右の銘とされていることをお聞かせください。
自分の生き方として「させていただく・ありがたい」の感謝の気持ちで毎日を過ごしたいと思います。

若々しく、情熱を持って書道の指導・作品づくりや木彫りの出品を目指して一刀一刃に心を込めていらっしゃる西田先生、地域の文化活動推進のためご活躍ください。

西田 友三先生 (81歳)
(久万高原町久万在住)

謹賀新年



新しい年が皆さまにとりまして、良い一年でありますように！

教職員共済生活協同組合 愛媛県事業所

〒790-8545 松山市祝谷町 1-5-33 1F本*1R愛媛文教会館 3F
TEL 089-998-2141 <http://www.kyousyokuin.or.jp/>

特集 私の夢―新年への抱負―

なでしこジャパンから学ぶ



新居浜市大生院中
教頭 田中 利季

期待はしていたものの実現すると思っていた人はいなかったのではないだろうか。

なでしこジャパンのW杯初制覇である。ベテランから若手までバランスよく揃った選手たちには、涙がほとんど見られない笑顔の勝利だった。日本サッカーの歴史を塗り替える偉業だ。また、澤選手の「なしこの歴史を変えられるように、頂点をめざした。」という言葉に集約されるように彼女たちは「新たな歴史」を作ろうとしている。

そこで、私の目標とし掲げたいことは「地域とともにある学校」である。学校（チーム）が、地域の人々と目標を

共有した上で、地域と一体になって子どもたちを育む。そのためにも平素から学校と地域の関係づくりが重要である。その中核的な立場にいる私の行動力が、そこに関わる全ての人々の自発的な学びや成長を促し、ひいては子どもたちや地域を守ることに繋がると考える。

学校組織に活力を生み出すために、私自身もサーバントリーダーシップを発揮し、校内では、教師の工夫や努力を認め、地域の方々とは自然の美しさや子どもたちの成長を共に感動できるよう努めていきたい。これらの力を生かし、校区の伝統を継承しつつ、新たな一步を踏み出すためにも、子ども・教職員・保護者・地域の人々が共有する目的のために時間を大切に使い、その成果を手に行ける学校づくりに校長の助言の下、邁進していきたい。

感動



松山支部
OB 鈴木 礼子

昨年は私にとって忘れることができない幸せな思い出を残せた年でした。思い出の地はオーストリアの街ザルツブルグとウィーン。長年憧れをいだき、いつかは行ってみたいと思っていた街です。その街へ、共に音楽を学んだ大学の同級生十人で行くことができたのです。旅の途中、何度も五感と心が今まで経験したことがないような感覚になりました。

ザルツブルグは映画「サウンドオブミュージック」の舞台の街として有名ですが、トランプ一家の屋敷を眺めた時、映画のシーンを思い出した。映画を見た中学生の時の心がよみがえったのでしょうか、不思議な感覚でした。そしてウィーンでは、ハプスブルグ家の豪華絢爛な美術

私の夢



松前岡田小
町教諭 谷村 友香

品に圧倒されました。中でも王宮礼拝堂の荘厳な空気の中でミサを見学した時、ずっと聞こえていたミサ曲に心が奪われました。それは、ウィーンフィルメンバールがいるオーケストラとウィーン少年合唱団とのすいこまれるような美しい音の協演だったのです。

また、美しく装飾された楽友協会ホールでのコンサート鑑賞では、演奏された三曲の内二曲が、大学時代我々が共に練習し演奏した曲で、懐かしさに浸りながら、素晴らしい演奏を聴き感動を共有できたことに喜びを感じました。

現職の時にこの旅をしていたら、子どもたちに感動する心をもっとたくさん伝えることができたかなと思った旅でもありました。これからも、感動する心を大切に持ち続け、いろいろな体験をしていきたいと思っています。



十。この数字は、日本を含めて私が訪れたことのある国と地域だ。その中で、世界遺産の数を挙げようとすると数えきれないほどである。

私の夢は、より多くの世界遺産を巡ることだ。もちろん、日本を含めて。平成二十四年。今年はどうな世界遺産に出合えるだろうか。考えただけでもわくわくする。

私が世界遺産にはまったきっかけは、「T H E 世界遺産」というテレビ番組を見たことである。この番組は、一九九六年から始まっている。初めに見たのは、見たい番組と番組のつながりに何となく見たのだった。しかし、何となくでも何回か見ると、はまってきた。高校の時に資料集で見ていたものが実際に映像で流れていたり、より詳しい話を聞いたりすると、行ってみ

たいなと思う気持ちが強くなった。また、行ったことのある風景を見ると懐かしく感じ、一緒に行った友達と思い出を共有することもできた。

今、一番行きたい所は平泉である。昨年、世界遺産に登録された場所でもあり、私が行ったことのない東北地方ということが理由である。

全ての世界遺産を巡ることは難しいので、番組や旅行パンフレットを見ながらの想像旅行が多くなるだろう。可能な限り世界遺産に足を運び、遺産からあふれ出す文化や自然のパワーを感じ取りながら少しずつ夢を叶えていきたい。

新年の抱負



今治・越智支部
OB
八塚 哲夫

二〇一二年、新しい年が始まった。退職して初めて迎える新年である。現在週三日、公民館に勤務しているが、現職の時に比べるとはるかに多

くの自由な時間がある。セカンドライフを充実させるために、次のことを実践しようと思っている。

一つ目は、「日々新たな気持ちで生きること」。リラックスイ色の時間だけで、豊かなセカンドライフを過ごすことはできない。いい刺激と緊張があつて初めて、リラックスも価値を持つ。公民館の仕事も充実させ、少しでも地域社会に貢献したい。また、公民館を訪れる人や新しいものとの出会いを大切に、日々新たな気持ちで、いい刺激と緊張を保ち続けたい。

二つ目は、「ガーデニング」。私は花が好きである。さまざま草花や花木が咲き誇る庭は、とてもきれいで心地よい。また、ガーデニングの楽しさは鑑賞だけではなく、土をいじり、植物を育て、花を咲かせる過程にある。今年も四季折々の草花でわが家の庭をアレンジし、自分スタイルの庭づくりにいそしみたい。

三つ目は、「世界遺産めぐり」。昨年の夏、家内と二人で大自然の秘境と言われる知床岬を

訪れたが、その雄大で神秘的な美しさに感動した。人類共通の遺産である世界遺産…その秀逸な存在感とスケールは、人としての価値観を変えさせるだけのインパクトがある。生涯をかけて、できるだけ多くの世界遺産を訪ねること…それが私の大きな夢である。

人生これから



大洲市平野小
校長
山口 竹雄

昨年の秋ごろのこと、何気なく新聞の投稿を読んでいた。記事の内容は、おおよそ次のようなものでした。

「私は、今年の春、長い間お世話になった会社を定年退職になります。そのあと何をしたいのか迷っています。迷っているというより、何をしたいのかが見つかりません。会社の仕事だけに生きてきた者として、さびしいかぎりであります。」

この記事を読んで、私と似たような人がいるものだなと、何となくうれしくなるような共感を覚えました。もっとも、私の場合は、先の投稿者ほどの仕事一筋人間ではありません。

私もあと一年余で、教職生活が終わります。そのあとのことは、全くわかりません。まわりの人たちからもよく聞かれるのですが、これといった趣味・特技はありません。これまでに、多少は挑戦してきましたが、どれも中途半端に終わっています。ですから、今年一年間かけて、何かを見つけることが、新年の抱負です。明るい希望ありません。

ところが、つい先日、ある元校長先生から、私にすばらしいアドバイスをしていただきました。「先生な。退職したらやりたいことがいっぱい出てくるから。今から、そんなに心配せんでもええのよ。六十歳過ぎてからでも、勉強したいことややってみようよ。とは、なんぼでもある。とにかく、家にだけは閉じこもらんことよ。」

自費出版・記念出版

足跡をつづる、私を記す。あなたが主人公のドラマを未来に伝えませんか。

- 編集方針のご提案
- 規格・装丁のご提案
- レイアウト見本のご提示
- 原稿作りのアドバイス
- 予算のお見積り
- その他、ご相談承ります。一

※書店での販売をお考えの方も是非お声をください。

SEKI セキ株式会社

松山本社 / 松山市南町7丁目7-1 TEL(089)945-0112
東京本社 / 東京都港区代々木3丁目2番6号 TEL(03)3377-1230
支店 / 大塚 / 高松 / 岡崎 / 名古屋 / 高知 http://www.seki.co.jp



本館ロビーには、現在、ドラマ「坂の上の雲」にちなんで、好古、真之、子規の書画(松山支部松岡紀雄氏所蔵)を、また、図書室には句集「航跡」「続航跡」(渡部次郎氏御寄贈)を展示しております。ぜひ御鑑賞、御覧ください。



第63回日連教茨城大会記念講演(昨年八月開催)

演題 「日本の宇宙開発について」

JAXA筑波宇宙センター所長

川田 恭裕 先生

報告者



伊予市中山小
市長 吉田 京子

一 宇宙開発の歴史

日本の宇宙開発は、一九五五年に糸川教授がペンシルロケットの水平発射実験を行ったのが始まりである。続いてカッパ型・ラムダ型ロケットが生まれ、一九七〇年に日本初の人工衛星「おおすみ」が打ち上げられた。その後、固体のロケットは国産技術によりミューV型ロケットをつくることに成功し、「はやぶさ」を打ち上げることができた。次のロケットとしてイプシロン計画があり、平成二十五年に打ち上げを予定している。もう一つ、今使われているH12A・2Bの大型の液体ロ

ケットがある。これは非常に制御性が高く、精度もよいため、衛星を確実に静止軌道に運ぶことができる。約二トンの重量を運ぶことが可能になり、NHKのBS放送やNTTの通信衛星に利用されている。これは世界的にも競争力を持った技術である。現在では、最大級の衛星四トンクラスまでつくれるようになってくる。一方、世界的に見てみると、ロシア人のソルコフスキーがロケット推進の原理を力学的に証明し図面化したことからスタートした。その後、ロシア、アメリカの二大

九六〇年代に宇宙システムが開発、研究され尽くしたと言っても過言ではない。
二 宇宙開発システム開発とその成果
宇宙に行くための必須の道具がロケットであり、エンジンの開発がキー技術である。概ねジャンボジェット機の四割分のエンジンが消費され、燃焼は一五〇気圧である。ロケットの一番上はフェアリング、それから二段、一段となっており、それを全部付加して地上から打ち上げることができ。ロケットが打ち上がった後、衛星が分離され、軌道まで運ばれるシステムとなっている。衛星は、情報伝達・地球観測手段としての通信放送、気象現象を観測して天気予報や防災業務、位置測定等様々に利用されている。
また、有人関係としては、「宇宙ステーション」がある。医学的な実験をはじめとして、無重力空間の中での生物の対応など研究者から大いに期待されている。
三 今後の宇宙開発と教育
平成二十年に「宇宙基本法」ができたことで、平和利

用から安全保障の強化という面にも目が向けられてきている。実際は九つのプログラムに分けられており、JAXAは全ての分野で協力をしていきたい。太陽光発電という研究プログラムも大きな基本計画の中で述べられており、積極的に協力していく予定だ。
また、「宇宙教育センター」をつくり、教材づくりや青少年たちへの教育活動を実施している。学校教育、社会教育、家庭教育、そして国際活動など、直接子どもやPTAの方と接する場もつくっているの

訂正

十二月号俳句入選句者名の
●生石小六 二宮季湖を二宮季瑚
●柴小六 白石穂邑を白居穂邑
●味生第二小三 武智穂香を武智歩
果にお詫びして訂正いたします。

愛媛県学校生活協同組合連合会
ホームページ好評稼働中！
http://www.ehime-gakuseikyou.jp/index.jsp
2010年9月に開設したホームページです
各事業分野、是非ご覧ください

コスモSカードご入会のおすすめ
上記の制度にご入会いただきますと、カード会員価格でガソリン・軽油を県内はもちろん、全国のコスモ給油網(全国6,700ヶ所)において、カードで共通利用できます。
愛媛県学校生活協同組合連合会
電話(089)925-0555
又は、都市学校生活協同組合
お問合せは

ふるさとスケッチ

No.341

樹の声を聞ける

子どもたち



東中三島市中央市四国
論教 寺尾 達也

ここは四国中央市下柏、樹齢千二百年というイブキビヤ

クシンは天然記念物。その崇高さと威厳を紹介したいと思つてスケッチに來た。しばらくすると、子どもたちの声、「もつとしてくれつて言つてるよ。」ん…？何言つてるんだらうと、そつと覗いてみると、「もつとお掃除してくれつて言つてるよ。」と、樹の根元あたりのくぼみに詰まった泥を棒でほじくつていた。「気持ちいいつ



て言つてるよ…。」神様がいるみたいだった。姿を変えないまま生きていく。かつて東予地区の海岸は「カプトガニ天国」と呼ばれるほどの繁殖地だった。しかし、今や絶滅の危機にひんしている。豊かで美しかった海は、埋め立てや海水汚染のため、昔の面影は無い。カプトガニを守ることは、魚や貝などの漁場や自然環境を守ることであり、それは、人間を守ることである。そんな思いから、市では、市民・学校・守る会などが一体となり、カプトガニ保護活動に取り組んでいる。水質には問題なく、放流すれば復活する可能性は高いと言われる西条市東予地区の河原津海岸。今年も子どもたちは「大きくなって帰つておいで」を込めて幼生を放流する。

ご冥福をお祈りします

Table with 3 columns: Name, Age, Address. Includes names like 柳瀬ユキエ様, 永易暉章様, 松本二郎様, etc.

ローカルトピックス

大きくなって帰つておいで

西条市東予郷土館内の水槽には、大きなカプトガニが泳いでいる。カプトガニは二億年前から

祝 受章・受賞おめでとうございます

- 瑞宝双光章(高齢者叙勲) 國田 弘文様 88歳 元小松町立小松小学校長 西条市
教育者文部科学大臣表彰 柳瀬 康治様 59歳 西条市立丹原東中学校長 西条市
三好 龍二様 59歳 松山市立味酒小学校長 松山市

お知らせ 三月までの主な行事

- 一月一九日(木) 臨時評議員会
第三回 理事会
一月二四日(火) 賛助会員代表者会
二月一四日(火) 愛媛の教育を語る会
二月二八日(火) 第二回 支部長会
第二回 評議員会
三月二日(金) 教育功労者選考委員会
三月一〇日(土) 第四回 理事会
叙勲・受賞者祝賀会



文教月報編集協力委員 月岡 邦子 東予・周桑支部OB

「えひめ教育の日」推進大会

十一月一日(火)、文教会館で「えひめ教育の日」推進大会を開催。田鍋会長あいさつに続き、教育の日関連写真や「親子のふれあい・つながり」のポスター・作文・エッセイの最優秀作品の表彰を行った。また、早稲田大学大学院三村隆男氏による記念講演「キャリア教育は地域を変える」では、「子どもたちに働くことや職業の意味を学ば

せ、自らの力で生きる能力を身につけさせることが必要である」などの提言をもとに、参加者三〇〇余名が教育について考えた。一方、県内六〇校の小中高校から寄せられた、テーマ「ありがとうでつなげよう」に関する写真を大会誌に掲載するとともに、パネル展やNHKアートギャラリー展で披露した。



開会挨拶 (田鍋修推進会議会長)



関連写真展 (NHKアートギャラリー)



記念講演 三村隆男教授

「えひめ教育の日」推進フェスティバル

県民への一層の普及・啓発を図るため、NPO法人等の協力を得て、「えひめ教育の日」推進フェスティバルを、十月三十日(日)、エミフルMASAKIで開催した。会場は、青少年育成夢Cubeによるダブルダッチ体験講習や、元気いっぱい躍動感にあふれた演技の新田高校ダンス同好会のヒップホップダンス、美しい音色や歌声を披露した県内七高校合同のクラリネットアンサンブルと「ひがしコーラス」、また、

科学の不思議を驚きと感動をもって体験学習した「えひめ科学ゆめ塾・研究所」加藤隆弘先生による「おもしろ科学実験ショー」など、さまざまなイベントで盛り上がった。愛媛マングリンパイレーツの選手たちも応援出演した。



開会式 (エミフルMASAKI)



ダブルダッチ体験講習 (青少年育成夢Cube)



おもしろ科学実験ショー (えひめ科学ゆめ塾・研究所)



ひがしコーラスによる合唱



ヒップホップダンス (新田高校)



県内高校生合同クラリネットアンサンブル